

平成27年度活動報告 御嶽山火山防災協議会構成機関の取組

資料 1 - 2

○平成27年度に協議会構成機関が行った御嶽山火山防災対策の取組

(1) 避難対策

実施項目	実施主体	概要	実施時期
避難誘導看板の設置	木曽町	(目的) 平常時の登山及び非常時の避難における距離目安として登山者の的確な移動の判断材料とするため (内容) 黒沢口登山道4箇所に看板を設置	H27.9.18
登山道の修繕	木曽町	(目的) 登山者がより安全に登山又は避難ができるための環境整備 (内容) 黒沢口登山道入口～九合目及び開田口登山道の木段の修繕及び鉄杭、ガイドロープの更新	H27.6～10
屋外スピーカーの設置	木曽町	(目的) 非常時に音声により登山者に避難をよびかけるため (内容) 御岳ロープウェイ山頂駅、行場山荘、女人堂、石室山荘、二ノ池本館に有人放送設備を設置	H27.6～10
御嶽山安全パトロール隊による巡視	木曽町	(目的) 非常時に巡視隊員による登山者の避難誘導を実施 平常時は山小屋や登山道において登山者への安全指導や、登山計画書提出の呼びかけ等の啓発対策を実施 (内容) 19名の隊員の交代制により、7月1日から11月9日まで登山道を巡視	H27.7.1～ H27.11.9
警戒区域周辺の監視	王滝村	(目的) 警戒区域付近の監視及び避難誘導を実施 (内容) ①【監視員配置】 田の原観光センターに監視員2名を配置して監視を実施(非常時は避難誘導も実施) ②【監視委託】 (株)御嶽リゾートと監視委託契約を結び、田の原観光センター及びおんたけ2240スキー場営業期間中に従業員による監視を実施(非常時は避難誘導も実施)	H27.4 ～ H28.3
避難誘導訓練の実施	下呂市	【御嶽山五の池小屋】 (参加者)管理人及び従業員 5名 (内容)噴火発生時における施設利用者及び周辺登山者の避難ルートの確認	H27. 6

実施項目	実施主体	概 要	実施時期
防災・防火・避難訓練 の実施	アスモグループ(株)	<p>【御岳ロープウェイ】 (目的) 地震等災害及び噴火の想定も加え、来場者の避難誘導、救助の訓練を実施し、有事の際の対処確認と体制の構築 (内容) 社員・従業員37名参加(他に木曽広域消防本部、木曽警察署、木曽町、木曽地方事務所、含む)</p>	H27.6.4
		<p>【開田高原マイアスキー場】 (目的) 地震等災害及び噴火の想定も加え、第1次救助の訓練を実施し、有事の際の対処確認と体制の構築及び26年に実施した避難連絡システムに基づいた各現場の事前確認、サイレンの鳴動点検 (内容) 社員・従業員23名参加(他に木曽広域消防本部、含む)</p>	H27.12.2
	飛騨森林 都市企画(株)	<p>【チャオ御岳スノーリゾート】 (目的) 地震や火山噴火などの緊急時における対応の確認 (内容) 社員・従業員40名が参加し、消火訓練や避難訓練、救助訓練などを実施</p>	H27.12.1

(2) 啓発対策

実施項目	実施主体	概 要	実施時期
入山規制の看板設置	木曾町	御嶽山が活火山であること、噴火警戒レベル、入山規制中の範囲等を明示した啓発用看板を設置 (設置箇所) 御岳ロープウェイ山頂駅、黒沢口登山道入口、開田口登山道入口、油木美林入口	H27.6
	王滝村	御嶽山が活火山であること、噴火警戒レベル、入山規制中の範囲等を明示した啓発用看板を設置 (設置箇所) 夏季: 王滝口登山道入口、田の原遥拝所ゲート、田の原駐車場 冬季: 田の原駐車場	H27.4 ～ H28.3
	高山市	御嶽山が活火山であること、噴火警戒レベル、入山規制中の範囲等を明示した啓発用看板を設置 (設置箇所) 胡桃島キャンプ場口登山道入口、日和田口登山道入口、チャオ御岳スキー場口登山道入口	H27.6～
	下呂市	御嶽山が活火山であること、噴火警戒レベル、入山規制中の範囲等を明示した啓発用看板を設置 (設置箇所) 小坂口登山道同入口、仙人橋、五の池小屋南、摩利支天乗越	H27.6～
御嶽山情報の発信 ①入山規制情報に関するチラシの配布	木曾町	御嶽山が活火山であること、噴火警戒レベル、入山規制中の範囲等を明示した啓発用チラシを配布(チラシには二次元バーコードを用いて気象庁ホームページの「火山登山者向けの情報提供ページ」や木曾町ホームページの御嶽山情報ページのアドレスを表示) (設置箇所) 町内道の駅各所、山小屋ほか (配布数) 累計7,000枚	H27.5.1～ 随時
	王滝村	御嶽山が活火山であること、噴火警戒レベル、入山規制中の範囲等を明示した啓発用チラシを配布(夏季) (設置箇所) 田の原観光センター・王滝口登山道(大黒天付近) (配布数) 累計1,000枚	H27.6～11
	下呂市	下呂市小坂地域の登山客等の立ち寄る施設等に火山情報及び規制情報のチラシの設置 (設置箇所) ・濁河地区宿泊等施設 7箇所 ・道の駅 1箇所 ・コンビニ 1箇所 ・ガソリンスタンド 3箇所	H27.6～ 随時更新

実施項目	実施主体	概要	実施時期
②入山規制情報に関するポスターの掲示	王滝村	御嶽山が活火山であること、噴火警戒レベル、入山規制中の範囲等を明示したポスターの掲示(冬季) (掲示場所) おんたけ2240スキー場施設及びゴンドラ内	H27.12～
③ホームページでの 情報発信強化	木曾町	木曾町ホームページに、町が定める入山規制の状況のほか、気象庁ホームページの「火山登山者向けの情報提供ページ」等の関連情報のリンク集を掲載 併せて、気象庁の「噴火速報」や、緊急速報メールによる噴火に関する特別警報の配信開始についても、気象庁ホームページへのリンク掲載とともに情報発信を実施	H27.6.1～ 随時
	王滝村	王滝村ホームページに、入山規制情報等を掲載	H27.4～ 随時
	高山市	高山市ホームページに、入山規制情報やハザードマップを掲載	H27.6.1～ 随時
	下呂市	下呂市ホームページにて火山情報及び規制情報の掲載。気象庁の「噴火速報」や、緊急速報メールによる噴火に関する特別警報の配信開始についても、気象庁ホームページへのリンク掲載とともに情報発信を実施	H26.9～ 随時
④火山ハザードマップ の周知	下呂市	濁河地区宿泊等施設及び小坂地域自治会連合会に新たなハザードマップの配布及び説明 下呂市ホームページにて新たなハザードマップの掲載	H27.9
	木曾地方 事務所	木曾地方事務所ホームページにて新たなハザードマップを掲載 併せて、立体地図を作成	H28.3
火山情報講習会の 開催	木曾町	(目的) 御嶽山登山安全パトロール隊の結成にあたり、気象庁が発表する火山情報について隊員や関係者への解説 (参加者) 約10名 (内容) 気象庁の発表する火山情報の種類、噴火警戒レベルなどの説明	H27.7.9
火山防災講演会の 開催	下呂市	(開催内容) 日 時:平成27年11月29日(日)19時～21時 場 所:下呂市小坂町大島 きこりセンター 講 師:宇井忠英 北海道大学名誉教授 テーマ:御嶽山の噴火と小坂への影響を考える 参加者:約40名	H27.11.29

実施項目	実施主体	概 要	実施時期
火山防災研修会の開催	長野県	全国的に火山活動が活発となっており、火山を有する各自治体の火山防災対策の強化が求められていることから、長野県内の火山に係る自治体の火山防災対策への能力向上を図る必要があるため、火山防災研修会を開催 (研修参加者) 長野県内火山災害関係市町村防災担当職員、長野県庁及び県現地機関防災担当職員等 40名 (開催内容) 講演 京都大学防災研究所附属地震予知研究センター上宝観測所 大見 士朗所長 (講題)火山で発生する現象のよりよい理解にむけて～焼岳・乗鞍などの例から～	H28. 1.28
火山防災行政担当者セミナーの開催	岐阜県	高山市内において、焼岳、乗鞍岳、御嶽山、白山の火山防災協議会の構成自治体の担当者が一堂に会し、講演会と共通した課題について掘り下げた議論を行い、顔の見える関係を構築 (研修参加者) H27.5には約30名、H27.10には約40名 (開催内容) 講師(5/14):山岡 耕春(名古屋大学教授)、大見 士朗(京都大学防災研究所上宝観測所長) 講師(10/29):荒牧 重雄(東京大学名誉教授)、森本 輝(内閣府防災担当企画官)	H27.5.14 H27.10.29
火山防災フォーラムの開催	岐阜県	火山についてより深く、正しく理解するためのフォーラムを高山市民文化会館で開催 (参加者) 火山防災関係者、各火山防災協議会会員、一般参加者等約400名 (開催内容) ・基調講演 名古屋大学大学院環境学研究科地震火山研究センター 教授 山岡耕春「岐阜県の火山について」 医師・登山家 今井通子 「山に私が学んだもの」 ・パネルディスカッション 「火山と共生する地域づくりについて」 コーディネーター 山岡 耕春(名古屋大学教授) パネリスト 今井 通子(医師・登山家) パネリスト 名波 義昭(内閣府参事官) パネリスト 山中 漠(前北海道壮瞥町長) パネリスト 國島 芳明(高山市長) パネリスト 河合 孝憲(岐阜県危機管理部長)	H27. 9.25
防災風呂敷の作成	岐阜県	火山防災教育推進のため、赤色立体地図のデータを活用した風呂敷を作成 作成した風呂敷は、火山地域の小中学校で避難訓練の後に行った講習で活用 (講習を行った学校) 小坂小、小坂中(下呂市)	H27. 9

実施項目	実施主体	概要	実施時期
火山学習テキストの作成	岐阜県	小学校及び中学校の生徒に対して、火山のあらましや火山防災について、教育・啓発できるような教本を作成した教本は、HPIに公開したほか、火山地域の小中学校で避難訓練の後に行った講習で活用(講習を行った学校) 小坂小、小坂中(下呂市)	H27.11
会議、講演会での御嶽山噴火災害に伴う災害警備活動の発表	長野県警察本部 木曾警察署	御嶽山の現状及び災害警備活動に対する理解と防災意識の高揚を目的に、県内外の自治体・団体等の会議・講演会等において、御嶽山火山噴火災害活動の紹介等の講話を実施	H27.6～ H28.3
	岐阜県警察本部 下呂警察署	御嶽山の現状及び災害警備活動に対する県民の理解と防災意識の高揚を目的に、地元自治体や警察主催の会議・講演会において、御嶽山噴火災害に伴う災害警備活動の紹介、捜索隊員の体験談等の発表を実施	H27.6～11
火山災害に関連した事故防止研修の実施	長野県警察本部 木曾警察署	職員を対象とした火山災害装備資機材、対応要領等の教養(研修)を実施	H27.6～7
	岐阜県警察本部 高山警察署 下呂警察署	噴火災害について正しく理解するため、警察職員に対し以下の研修を実施 ・火山ガスについて ・ガス検知器、ガスマスクの取扱教養 ・有毒ガス検知時の措置	H27.5～10
写真パネル 災害装備品の展示	岐阜県警察本部 高山警察署 下呂警察署	御嶽山の現状及び災害警備活動に対する県民の理解と防災意識の高揚を目的に、地域のイベント会場や警察施設等で、御嶽山噴火災害に伴う災害警備活動の写真パネル、行方不明者捜索活動で使用した災害装備品の展示を実施	H27.5～ H28.2
本部教養研修の実施	木曾広域 消防本部	御嶽山の史実と噴火災害について職員研修を実施 (研修参加者) 45名程度 ・基調講演 (講師)及川輝樹 理学博士 (テーマ)(仮)「御嶽山の歴史と噴火災害の現象」 ・質疑応答	H28.3.10
土石流対策工事の 現地視察等	林野庁木曾 森林管理署	御嶽山の現状及び土石流対策工事に対する理解を目的に、有識者・地元住民等に対し施工現場の視察及び概要の説明を実施	H27.4～ H28.2

実施項目	実施主体	概要	実施時期
利用客への周知	アスモグループ(株)	<p>【御岳ロープウェイでの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御嶽山噴火に関する入山規制情報の掲示 ・避難場所等に関する案内地区の掲示 ・登山届提出啓発のための案内掲示と伝達、放送等 ・緊急避難マニュアルの作成 <p>【開田高原マイアスキー場での対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所等に関する案内地区の掲示と伝達、放送等 ・緊急避難マニュアルの整備、修正 	<p>H27.6.6～ H27.11.9</p> <p>H27.12.12 ～ H28.4.10</p>
	(株)御嶽リゾート	<ul style="list-style-type: none"> ・警告ポスター掲示 ・緊急時案内ポスター掲示 ・ポケット版緊急時案内チラシ配布 	H27.12.30
従業員研修の実施	(株)御嶽リゾート	災害時の初動対応周知と意識の向上を図るため、冬期従業員入社式時、約60名に研修を実施	H27.12.30

(3)その他

実施項目	実施主体	概要	実施時期
山小屋等の防災体制の強化 (火山災害備品等の拡充)	木曾町	(拡充場所) 御岳ロープウェイ、行場山荘、女人堂、石室山荘、ニノ池本館 (拡充内容) ・ヘルメットの配備 800個 ・マスクの配備 4,000個 ・ゴーグルの配備 1,300個 ・毛布の配備 500枚 ・懐中電灯 90個 ほか ※内訳は御嶽山火山防災計画(案)資料編における各施設防災対応図に記載のとおり (山小屋関係者向けの安全対策の拡充) ・火山ガス検知器の配備 4個 ・専用携帯電話の配備 4個 (御嶽山安全パトロール隊の安全対策の拡充) ・ベスト ・カップ ・ヘルメット ・ホイッスル ・防毒マスク ・吸収缶 ・ゴーグル ・防塵マスク ・スパッツ 各1個/隊員1名	H27.6~
	王滝村	(拡充場所) 田の原観光センター、田の原選拝所、田の原社務所 (拡充内容) ・ヘルメットの配備 250個 ・懐中電灯 30個 ・防災行政無線(移動系)の配備(田の原観光センター) ・AEDの配備 2台 (関係者向けの安全対策の拡充) ・ガス検知器購入 2台 ・防毒マスク購入 10個	H27.6~
	下呂市	(拡充場所) 五の池小屋 (拡充内容) ・折畳みヘルメット 100個 ・ヘッドライト 30個 ・ゴーグル 100個 ・防塵マスク 100枚 ・防災メガホン 1個 ・AED 1台	H27.6
田の原選拝所・ゲート 監視カメラ設置	王滝村	警戒区域への無許可立入防止のため、立入規制場所(田の原選拝所)付近に、監視カメラを増設(2台)して、監視を実施	H27.6~11
御嶽山入山情報システムの導入	木曾町	町が非常時に御嶽山にいる登山者の数、おおよその位置を把握し、必要に応じ安否確認の連絡をとるためのシステムを導入 (成果) 77組 124名の利用	H27.9.16~
おんたけ王滝アプリの導入	王滝村	王滝村を訪れる登山者、スキーヤーなど観光客等の一時滞在者への防災情報伝達の補助ツールとしてスマートフォン(多機能型携帯電話)用のアプリを開発 (成果) 267人登録(H28.3.9現在)	H27.12~

実施項目	実施主体	概 要	実施時期
御嶽山安全対策連絡会議の開催	木曾町	御嶽山の火山防災対策や登山者の状況について、山小屋関係者や索道事業者と相互に情報共有や意見交換を行うための御嶽山安全対策連絡会議を組織し開催	H27.4.15 H27.8.7 H27.9.1
救出救助訓練の実施	長野県警察本部	①高地における火山噴火災害救出救助訓練(7回実施) 菅平高原等において高地での捜索・救出救助・体力錬成訓練を実施 (訓練内容) ・ガスマスク、ガス検知器等装備品取扱い ・要救助者捜索 ・緊急退避 ②関東管区広域緊急援助隊総合訓練 山梨県で開催された総合訓練において、火山噴火災害を想定し他県警、消防、自衛隊と連携した救出救助訓練を実施	H27.4～7 H27.11.12
	岐阜県警察本部	高地において火山噴火災害を想定した救出救助訓練を実施(乗鞍岳等3回) (訓練内容) ・火山装備品の取扱い ・要救助者の救出救助	H27.5～6
	長野県警察本部	火山災害警戒地域を管轄する警察署等への火山噴火災害対策装備品の配置促進(木曾警察署配置済) (主な装備品) ・ガス検知器 ・金属探知機 ・防毒マスク(吸収缶を含む)	H27. 6
火山噴火災害対策装備品の拡充	岐阜県警察本部	火山対策装備品の整備 ・防毒マスク ・マスク用フィルター ・マスク用吸収缶 ・ゴーグル ・ヘルメット ・手袋 ・安全靴 ・ヘッドライト ・登山用ジャケット・パンツ ・ガス検知器 ・金属探知機	H27. 6
防災体制の強化	下呂土木事務所	御嶽山火山噴火防災(減災)業務マニュアルの改訂 [情報収集業務の新規項目] ・降灰による河川の白濁状況を把握するため「中部電力の河川水質管理カメラの画像入手」を追加	H28.1
火山観測施設の整備	気象庁	御嶽山周辺に観測機器を設置し、観測を強化	H27.4～ H28.3

実施項目	実施主体	概要	実施時期
御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会(第8回)の開催	国土交通省 多治見砂防国道事務所	御嶽山の噴火に起因する土砂災害を軽減するための減災対策を検討(平成21年度より年1回程度の開催) H26噴火災害への対応における課題及びその対応方針、御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画における相互連携に関する申合せ(案)、今後の対応等について議論 (構成) 専門家8名、行政機関27機関	H27.12.25
御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画における相互連携に関する申合せの締結	国土交通省 多治見砂防国道事務所	緊急時の減災対策について、実行性をより円滑かつ確実なものとするため、緊急時ハード・ソフト対策の相互連携の内容等を申合せとして締結 (対象) 行政機関14機関	H28.2.26
地殻変動の監視 地理空間情報の提供	国土地理院 関東地方測量部 国土地理院 中部地方測量部	GNSS連続観測及びだいち2号(ALOS-2)による干渉SAR技術を用いて地殻変動を監視し、火山噴火予知連等への情報提供とあわせて国土地理院ウェブサイトを通じて公開 火山周辺の地理空間情報を整備し、必要に応じて火山防災協議会及び関係構成機関に提供	H27.4~
土石流対策工事の実施	林野庁木曽森林管理署	木曽町三岳地内における土石流対策工(倉本湯川復旧治山工事) 王滝村地内における土石流対策工(濁川復旧治山工事)	完成 H27.11.24 H28.2.5
山岳救助資機材の整備	下呂市 消防本部	(山岳救助資機材の整備) ・登山靴 3足 ・リュック 3個 ・ザックカバー 3個 ・レインコート 2着 ・スパッツ 3組 ・ストック 8組	H27.7
防災グッズの配備・点検	(株)御嶽リゾート	スキー場内各避難場所のヘルメット等、配備と個数確認を実施	H27.12